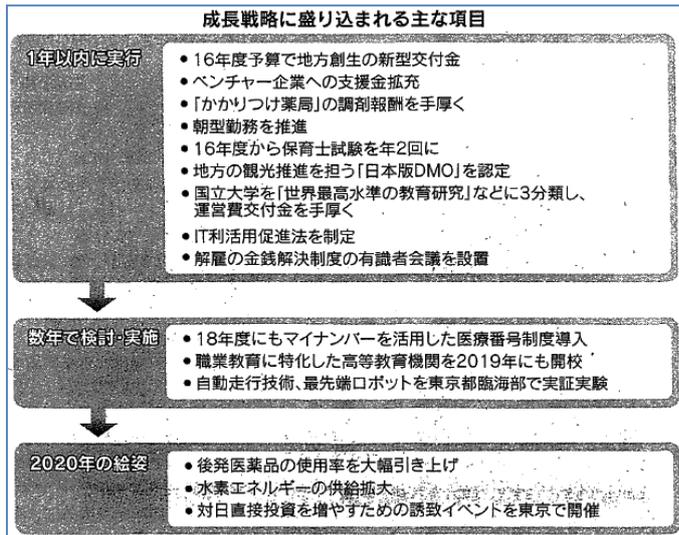


# SDNET-300 先見情報No.58

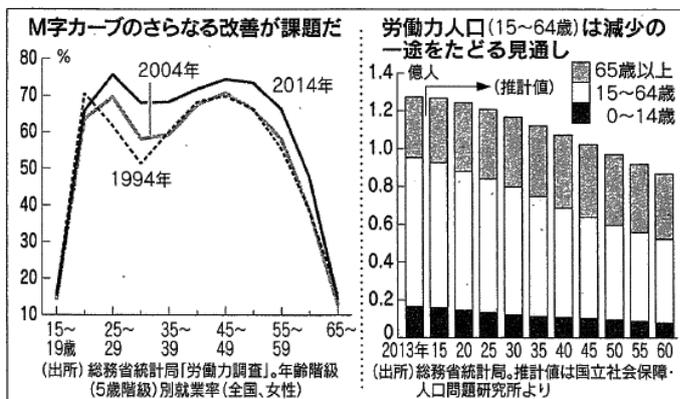
## 「生産性向上 成長底上げ」 － 改革は時間との戦い －



景気回復が進み製造業でも非製造業でも人手不足が「成長の天井」として悩みの種になっている。人口が減少するなか生産性の向上が新たな成長の焦点だ。

新たな成長戦略では 20 年を見据えた「世界で最もイノベーションに適した国」を打ち出す。ガギとなるのは、人手に頼らない「無人経済」への取り組みだ。IT（情報技術）やロボットによる産業構造改革を推進する。政府も新技術を素早く実用化できるように、規制改革などを進める。

### ■ ロボット、介護・農業一人出不足の解消支援 ■



物流の常識を変えると期待されているのが小型無人機「ドローン」。ドローンを使ったテロや事故対策など安全面に配慮しながら、政府は商用利用を進める。特区で実証実験を進めながら、産業化を阻害しないようなルールづくりを囲指す。

ロボットは製造業の工場だけでなく、介護分野などにも広げる。普及を後押しするために、政府は介護ロボットの費用

を保険財政から一部捻出することも検討する。

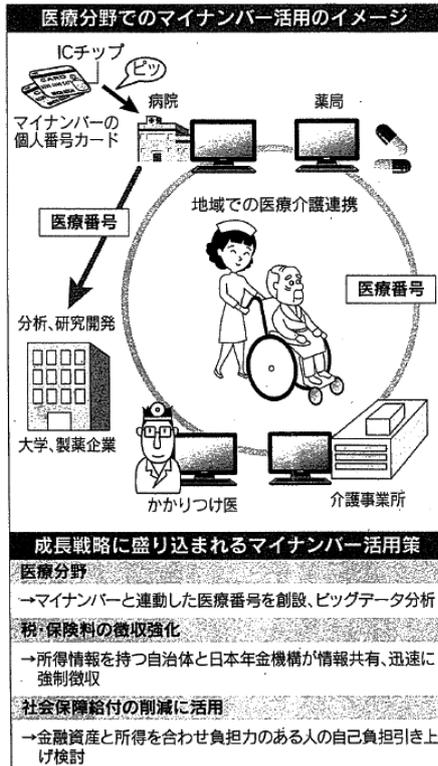
### ■ 農産物の輸出を拡大一大規模・ITも活用 ■

交渉が大詰めを迎えている環太平洋経済連携協定（TPP）は、成長の起爆剤になりそうだ。製造業には恩恵がある一方、農家の高齢化や耕作放棄地問題に悩んできた農業の再生にもつながる可能性がある。競争力のある農産物は輸出で稼ぐことを視野に入れ、攻めの農業への転換を急ぐ。

60年ぶりに農協を改革する法案も国会に提出した。今回まとめた成長戦略では、農業を産業化するための具体策を盛り込む。

### ■ 働き方ー多様な働き方実現は道半ば ■

働き方では長時間労働の是正を打ち出す。一部の民間企業は早朝勤務で残業を減らしながら生産性を上げる取り組みを進めている。霞が関の省庁でも7~8月の勤務時間で仕事を終わられるような環境を整える。待機児童解消など女性が働きやすい環境も整える。



■マイナンバー—医療にもマイナンバー■

公的サービスは、社会保障と税の共通番号（マイナンバー）を使って効率化する。日本年金機構の個人情報流出事件があったばかりで、個人情報の保護に配慮しながら、マイナンバーの普及を進める。

特に医療分野でのマイナンバー活用を掲げる。カルテや診療報酬明細（レセプト）などの医療情報を管理する医療番号を18年度から段階的に導入。マイナンバーと連動させて運用する。

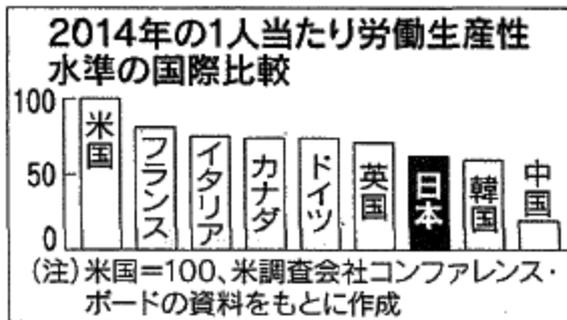
■残された課題

1%未満とされる日本の潜在成長力をいかに引き上げるか。残された課題が多い。

働き手が年々減るニッポン。成長戦略の具体化作業は時間との戦いになってくる。

混合診療の拡大、「脱時間給」の解禁。農協改革、電力・ガス改革……。こうした既得権益の抵抗が強く、長年手つかずの「岩盤規制」はまだある。しかし、この「岩盤規制」にも風穴をあけつつある。

企業収益は過去最高水準に達し賃金は改善している。デフレ脱却が視野に入る今、やりすぎる実行力が問われる。



ヒト、モノ、カネ、サービスの流れを自由にし、新陳代謝や競争促進を通じて生産性を高める規制改革は、なお成長戦略の「一丁目一番地」のはずだ。

日本の潜在成長率は1%未満に沈んでいる。2014年の日本の1人あたり労働生産性の水準は米国の6割強にとどまり、13年度の日本の名目労働生産性水準は764万円で、リーマン・ショック後の2010年から4年連続で改善した。しかし、依然として直

近のピーク水準（798万円、2007年度）を下回り、**日本の労働生産性（就業者1人あたり名目付加価値）は、主要先進7カ国中では最下位である。**

（出典：日本経済新聞 2015年6月22日）

「労働生産性を向上しない限り、企業の未来は無い。」

成長戦略は人口減少を踏まえロボット活用などの技術革新で生産性を高める改革が盛り込まれている。この成長戦略を実現させ、経済再生を行う主役は企業経営者である。企業経営者は、生産性向上とイノベーション創出を追求し、経済成長に積極的役割を果たしていかなければならない。

労働生産性は、従業員の能力向上や、効率改善に向けた努力、経営効率の改善などによって上昇するのである。高齢化によって就業率が低下しても、労働生産性がそれ以上にアップすれば良い。

企業は、現在の厳しい経営環境の中で、中長期的に労働生産性を向上させていくために、人材確保・育成、技術革新といった付加価値の拡大に積極的に取り組んでいくことが重要である。

経営者と従業員が信頼関係を深め合い、課題認識を共有しながら、一丸となって生産性の向上を目指すことである。企業の持続的発展のカギは、「労働生産性の向上」である。